

大学等名：北九州市立大学

テーマ：テーマⅡ（学修成果の可視化）

今回の取組では、三層構造の学修成果の可視化の観点から、全学的な教学マネジメントの改善にアプローチする。第1段階では、全学共通のAP(アドミッションポリシー)・CP(カリキュラムポリシー)・DP(ディプロマポリシー)を体系的に整理し、大学が求める人材育成のための基本的事項の整備を行い、授業改善につなげていく。第2段階では、DPに即した人材育成が計画的に進行しているか、自己評価システムを確立し全学生を対象に学修到達度調査を実施し、社会に出るために必要な認知・汎用能力等を客観的に測定する。第3段階では、更に各学部ごとにWIL(Work Integrated Learning)による学修成果の可視化を行う。具体的には、アクティブ・ラーニング科目を設定し、多面的評価による学生評価指標と地域による実践教育波及指標を導入し、成績評価の項目として設定して、WIL受講学生の成長の可視化を図る。



【事業の成果】

具体的な実施計画における指標	H26年度	令和元年度	
	(起点)	目標	実績
学生の授業外学修時間	1.5時間	15.0時間	6.68時間
学修到達度調査の実施率	未実施	100.00%	100.00%
学生評価指標を用いた成績評価の実施	未実施	25.00%	25.40%
学修行動調査の実施率	17.20%	100.00%	77.3% ※
授業満足度アンケートにおける授業満足率	未実施	85.00%	82.10%

※令和元年度4年生対象の卒業時アンケートはコロナ対策で実施出来なかった。



・本事業を実施することにより、主体的な学び、学修成果の自己管理・自己分析を行うことが、学生の成長にどのように効果があるか検証することで、教育・学修成果の可視化に関する教育制度改革をより一層、進展・進化させる。
・事業実施により、近年実践型教育が全国的に設置されている中、学生の成長の可視化と実践型教育による大学外の波及効果を算出する本事業の評価指標は、全国的な指標モデルとして先駆的役割を果たすものである。